

地域ケア推進会議からの提言

～地域ケア会議から見えてきた地域課題～

R2.3.11

都島区高齢者地域包括ケアシステム推進会議

地域ケア会議について

地域ケア会議は、高齢者個人に対する支援の充実と、それを支える社会基盤の整備とを同時に進めていく、地域包括ケアシステムの実現に向けた手法。

具体的には、地域包括支援センター等が主催し、

- 医療、介護等の多職種が協働して高齢者の個別課題の解決を図るとともに、介護支援専門員の自立支援に資するケアマネジメントの実践力を高める。
- 個別ケースの課題分析等を積み重ねることにより、地域に共通した課題を明確化する。
- 共有された地域課題の解決に必要な資源開発や地域づくり、さらには介護保険事業計画への反映などの政策形成につなげる。

地域包括支援センターでの開催
(高齢者の個別課題の解決)

○多職種の協働による個別ケース(困難事例等)の支援を通じた

- ①地域支援ネットワークの構築
 - ②高齢者の自立支援に資するケアマネジメント支援
 - ③地域課題の把握
- などを行う。

《主な構成員》

自治体職員、包括職員、ケアマネジャー、介護事業者、民生委員、OT、PT、ST、医師、歯科医師、薬剤師、看護師、管理栄養士、歯科衛生士その他必要に応じて参加

※直接サービス提供に当たらない専門職種も参加

地域課題の把握

地域づくり・資源開発

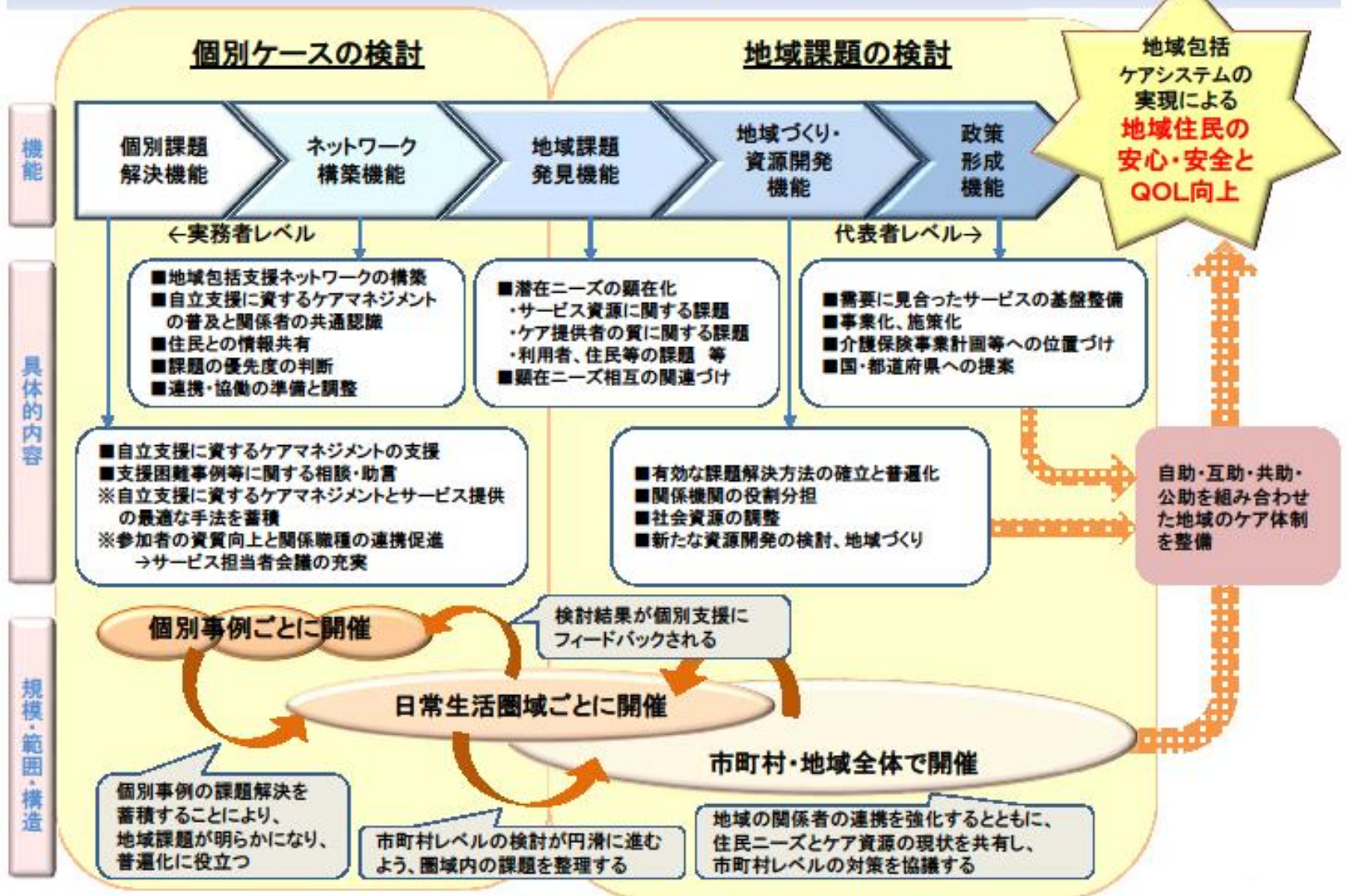
政策形成

介護保険事業計画等への位置づけなど

市町村での開催

(地域課題を解決するための社会基盤の整備)

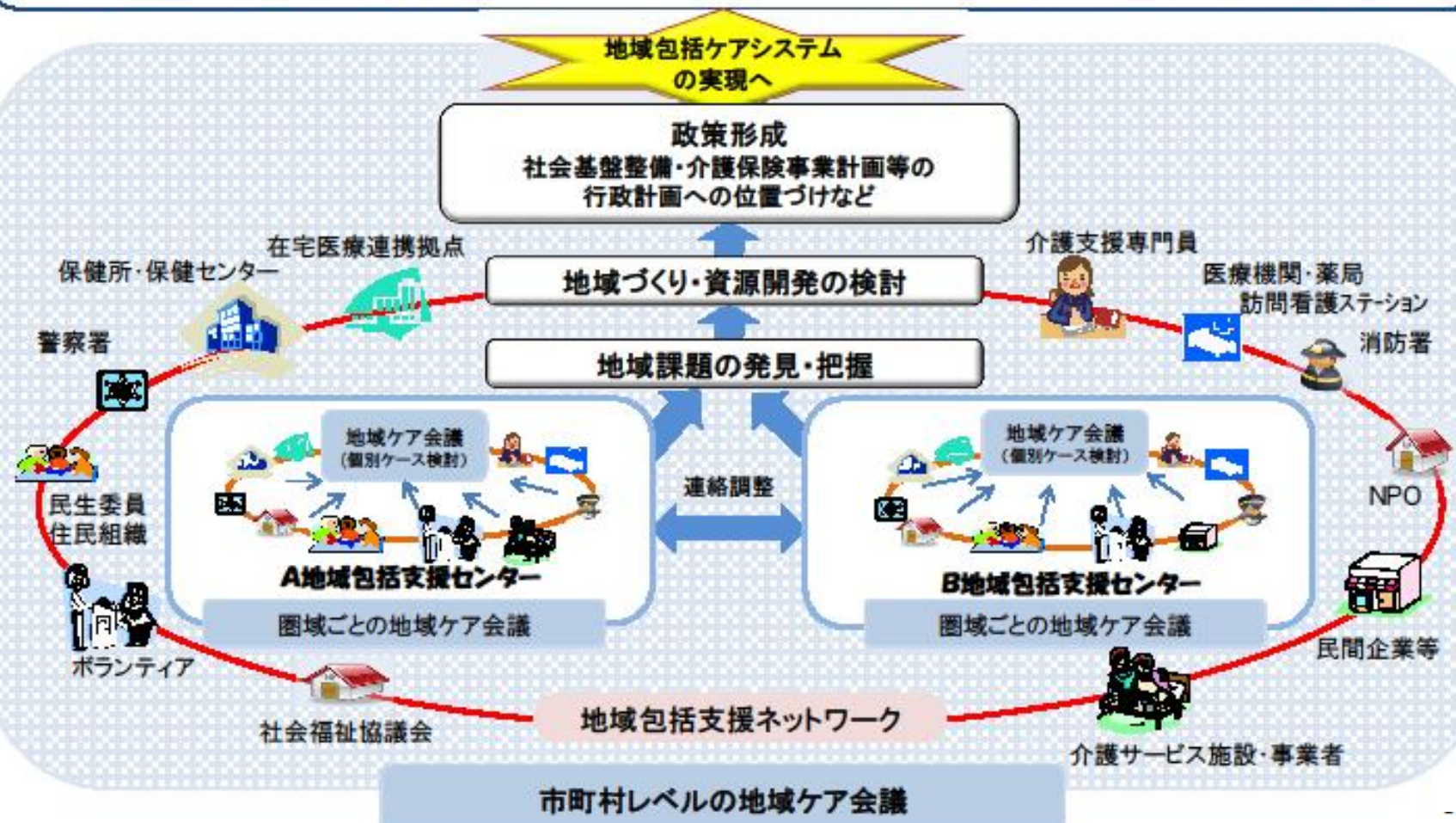
「地域ケア会議」の5つの機能



※地域ケア会議の参加者や規模は、検討内容によって異なる。

「地域ケア会議」を活用した個別課題解決から地域包括ケアシステム実現までのイメージ

- 地域包括支援センター(又は市町村)は、多職種協働による個別ケースのケアマネジメント支援のための実務者レベルの地域ケア会議を開催するとともに、必要に応じて、そこで蓄積された最適な手法や地域課題を関係者と共有するための地域ケア会議を開催する。
- 市町村は、地域包括支援センター等で把握された有効な支援方法を普遍化し、地域課題を解決していくために、代表者レベルの地域ケア会議を開催する。ここでは、需要に見合ったサービス資源の開発を行うとともに、保健・医療・福祉等の専門機関や住民組織・民間企業等によるネットワークを連結させて、地域包括ケアの社会基盤整備を行う。
- 市町村は、これらを社会資源として介護保険事業計画に位置づけ、PDCAサイクルによって地域包括ケアシステムの実現へとつなげる。



各レベルにおける地域ケア会議

市レベル

区レベル

包括圏域レベル

地域包括支援センター

(1) 地域ケア個別会議

複合的課題があるなど、支援困難な事例についてかかりつけ医、民生委員等の関係者が支援方針を検討する。

- ・個別ケースについて検討する会議
- ・検討したケースの振り返りを行う会議
- ・地域課題の取りまとめを行う会議

見えてきた課題のとりまとめ

包括圏域で
取り組む課題

取組み実施

区地域ケア 推進会議

課題内容の検討

報告

包括圏域
で取り組む
課題

区レベルの課題

区の施策

市地域ケア 推進会議

地域ケア会議から
見えてきた課題に
ついて集約

報告
提言

市レベルの課題

市の施策

複合的課題に対し、
複数の支援機関が
支援方法を共有し
役割分担する場

総合的な支援調整の場（つながる場）

他の支援機関との連携が必要な課題

都島区地域ケア会議の現状

	H30年度 (H30.4.1～H31.3.31)		H31年度 (H31.4.1～R1.12.31)	
	開催回数	実件数	開催回数	実件数
個別地域ケア会議	51	40	32	26
事例検証のための 地域ケア会議	2	—	1	—
見えてきた課題のための 地域ケア会議	5	—	1	—
自立支援型ケアマネジメ ント検討会議	3	5	9	15

地域ケア推進会議からの提言

地域ケア会議の分析から見えてきた課題	課題に対する意見	課題解決に向けて取り組む方向性
<p>❖ 認知症があっても、身体機能が高ければ要介護認定が軽度となり、利用できるサービスの制限がある。</p>	<p>❖ 普段から付き合いがあれば、変化に気づきやすく、認知症が発見しやすい。</p> <p>❖ 高齢者と支援者の仲介役の人がいれば、地域の行事に参加しやすい。</p> <p>❖ 認知症の知識の普及啓発を行い、対応方法も理解してもらえるようにする必要があるのでは。</p>	<p>❖ 相談があった時から、多職種連携を図り支援する。</p> <p>❖ 認知症についての知識の普及啓発を行うと共に、対応方法も理解してもらえるように周知する。</p> <p>❖ かかりつけ医・かかりつけ薬局をもつ。</p> <p>❖ 閉じこもりがちの人に対し、短期で利用できる個別リハビリ等、自立につながる制度の整備。</p>

地域ケア推進会議からの提言

地域ケア会議の分析から見えてきた課題	課題に対する意見	課題解決に向けて取り組む方向性
<p>❖ 認知症があって地域で暮らすには、周囲の理解が必要。認知症高齢者の個人情報を守りながら、周囲の理解を深めていく難しさがある。</p>	<p>❖ コミュニケーションを深めることで、本人・家族・地域の理解も受容もすすむのではないか。</p> <p>❖ 専門職と地域が連携して、複数で関わるようにする必要があるのでは。</p>	<p>❖ 地域が誰にでも起こることと捉えて、あたたかく受け止められるように啓発を行う。</p> <p>❖ 専門職と地域が連携して、複数で関われる体制をつくる。</p> <p>❖ 家族等への理解を求めただけではなく、必要に応じて情報共有ができるような体制(条例等)をつくる。</p>

地域ケア推進会議からの提言

地域ケア会議の分析から見えてきた課題	課題に対する意見	課題解決に向けて取り組む方向性
<p>❖ 地域の社会資源の利用は女性が多く、男性が利用しづらかったり、通える範囲の場所になかったりする。また、個別のニーズに対応できるボランティアの情報が必要。</p>	<p>❖ 利用者が通える場に参加しやすいように、仲介役となる人を見つける。</p> <p>❖ 高齢者だけでなく、子育て世代など幅広い世代へ普及啓発を行う。</p>	<p>❖ 利用者が通える場に参加しやすいように、仲介役となれる人を見つける。</p> <p>❖ 子育て世代など幅広い世代に情報発信を行う。</p> <p>❖ 様々な、地域の社会資源の創出。</p> <p>❖ 介護保険外のサービスで通院ボランティアとして、ヘルパー2級・3級など有資格者が活動できるような体制整備。</p>

地域ケア推進会議からの提言

地域ケア会議の分析から見えてきた課題	課題に対する意見	課題解決に向けて取り組む方向性
<ul style="list-style-type: none">❖ 生活機能が低下してきた高齢者が、徒歩で通える地域の社会資源がない。	<ul style="list-style-type: none">❖ スーパーやコンビニのイートインスペースに人が集まっている。❖ 誰でも行ける「おしゃべりさろん」のような場、セルフサービスで安く気軽に参加できる場所があればいい。❖ 企業に協力を求めているかどうか。	<ul style="list-style-type: none">❖ 「担い手」と「利用者」ではなく、全員が「担い手」という意識で社会資源に参加できるように支援する。❖ 地域の企業の協力を得て、通いの場などを協働で開催していく。❖ 商店街等の空店舗・空家を活用し、通いの場を創出する。❖ 高齢者等が外出しやすいような、交通の整備。

地域ケア推進会議からの提言を受けて

❖ 認知症になっても地域で生活できる地域づくり

- ・ 認知症に関する知識の普及・啓発を幅広い世代に行う
- ・ 認知症は特別な事ではなく、誰にでも起こる事として捉え、認知症の方を支えられる支援者を増やす

❖ 地域の「集いの場」の体制整備

- ・ 支援者・利用者がどのような集いの場を必要としているのか把握
- ・ 企業など地域の様々な方と協力して、地域の方が集える場所を創る